

つっかいぼう通信 ビー通信

90号・31号合併号

発行日;

令和4年9月13日

発行; NPO法人

障害者自立センター

つっかいぼう

グループホーム建設予定地の
開発工事が始まりました



グループホーム建設予定地に開発許可が下りて、八月一日から開発工事が始まりました。

この工事はホームを建てるための土地の造成工事で、擁壁を作り、土地を埋め立て、周囲にフェンスを張り、排水路を作ります。十二月末には完成との事です。少しずつホームが近づいて来る感じで、ワクワクしみじみしますが完成し入居までにはまだ気が遠くなるほどの道のりがあります。

なんととっても国の補助金の対象になるかどうかがとても大きなハードルですが、同様に大きなハードルが出現してきました。それは資材の高騰と不足です。原因はコロナ禍、ロシアによるウクライナ侵攻、円安と言われていますがどれも簡単に終わることでは全くなって品不足と物価の高騰で、建築費が何割も上がってしまうのではと言われていています。

果たしてグループホームが建設できるのかと言った危機的状況です。

いつもご支援ありがとうございます。更なる資金のご協力よろしくお願いいたします。

まだ先のことですが...

■グループホームで働いてみようと思われる方が見えたらぜひ声をかけてください。

令和4年度 岐阜市市民生活支援事業 採択事業

「通学・通勤支援を考える会」オープンカフェ&公開学習会

日時 11月6日(日)午前10時半～午後3時

会場 岐阜市民福祉活動センター 2階 中会議室 (岐阜市都通2-2)

内容

★公開学習会 午前 10時半～12時

テーマ「移動困難者への通学や通勤支援の意味合い(仮)」

講師 岡本直樹さん

DPI 日本会議常任理事(雇用労働部会担当)

自立生活センター CIL ふちゅうに勤務

★第2回「ざっくばらん、オープンカフェ」午後1時～3時

内容 午前中の公開学習会講師、岡本さんを囲んで行います。

参加申し込み

氏名、住所、連絡先、所属、アドレスをご記入の上、つかいぼう、ビー・カンパニーまでお願いします。つかいぼうHPでもご案内します。締め切りは10月16日(日)まで。

ZOOMによる開催も検討中ですのでご希望の方はお知らせください。

「障がい児者の通学・通勤支援を考える会」はつかいぼうも構成メンバーです。昨年は岐阜市とその周辺の特別支援学校や特別支援学級に通う方を対象に通学の様子や問題点を尋ねるアンケートを行いました。この通信の3～6ページまでが簡単にまとめたものの一部です。様々な課題と対応の必要性が浮かび上がります。しかし単なる送迎や介護と言った支援策があればいいという事ではなく、子供たちが地域を離れて遠くの学校に1時間近くかかって通わなければならないおかしさ、基本的に通学(通勤)に利用できるサービスがなく家族によって支えられている事などにしっかり目を向けていかないといけないと思います。学習会では、アンケートの結果報告とわずかではありませんが各地で取り組まれている事例の紹介を行いました。

令和4年度も岐阜市の市民活動支援事業に採択されました。8月21日には第1回「ざっくばらん、オープンカフェ」を開き、アンケート結果も話題に、いろいろ出された「通学の困りごと」を少しでも改善できるようにと、意見交流をしました。

「通学」をキーワードに思いつく事、いっぱい話しませんか。問題点、解決の糸口を一緒に探しましょう。ご参加、お待ちしております。

※「障がい児者の通学のようす」の詳しいアンケート結果を希望される方はご連絡ください。データ等でお送りします。

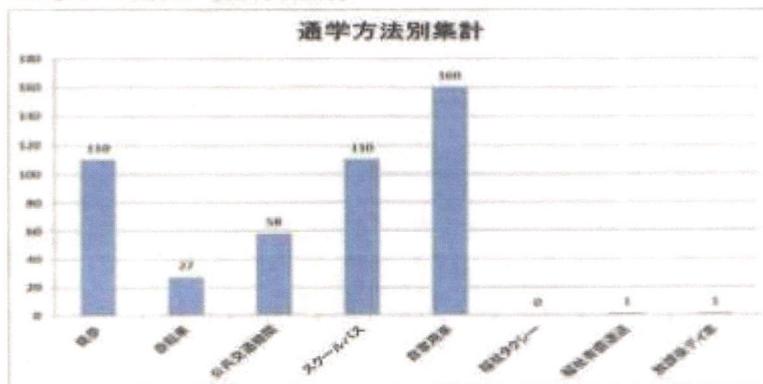
事業名：障がい児者の移動支援の充実をめざして

岐阜市近辺での「障がい児者の通学のように」
アンケートの報告（2021年10～11月実施）

1. アンケートの配布数と回収数

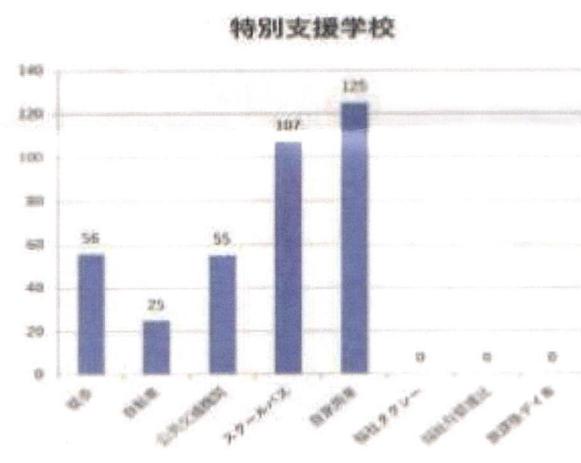
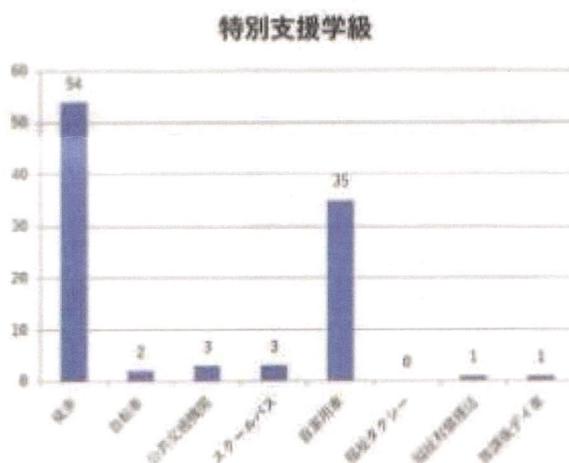
	学校数	協力校	送付数	回収数	回収率
岐阜市内小学校	44	12	103	54	52%
岐阜市内中学校	22	7	46	28	61%
盲聾学校他特別 支援学校		9	874	269	31%
			1023	351	34%

2. 通学の方法（全体集計）



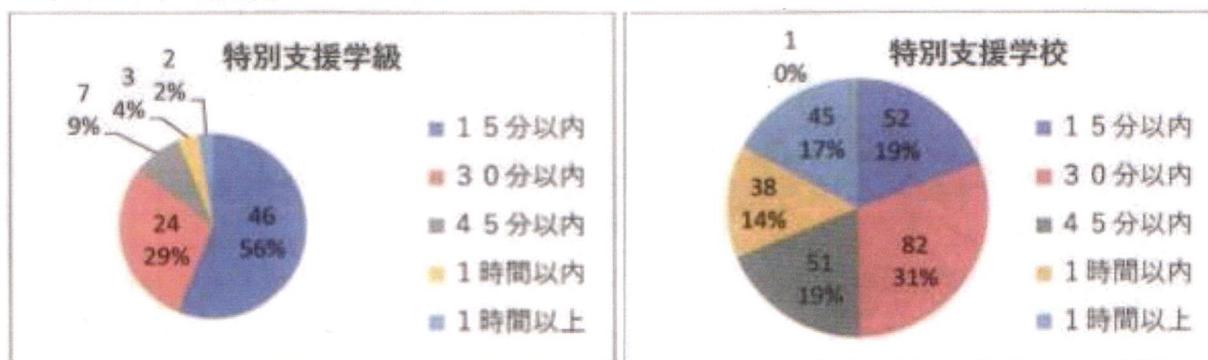
通学方法では、もっとも自家用車が多く、続いてスクールバス、徒歩、公共交通機関となっている。

3. 通学方法を「特別支援学級」と「特別支援学校」別にみてる。



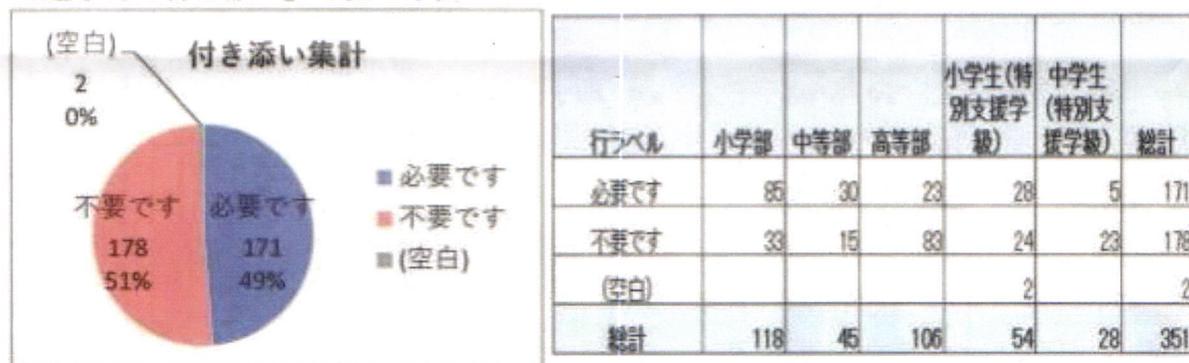
支援学級では徒歩と自家用車での通学、支援学校では自家用車からスクールバスその他通学方法が多様になっています。（学校までの距離の違い）

4.通学に要する時間



通学時間を45分以上かかるラインで分けると、支援学級では6%の生徒、支援学校では31%の生徒が、日々45分から1時間以上かけて通学している。

5.通学に「付き添い」の要・不要

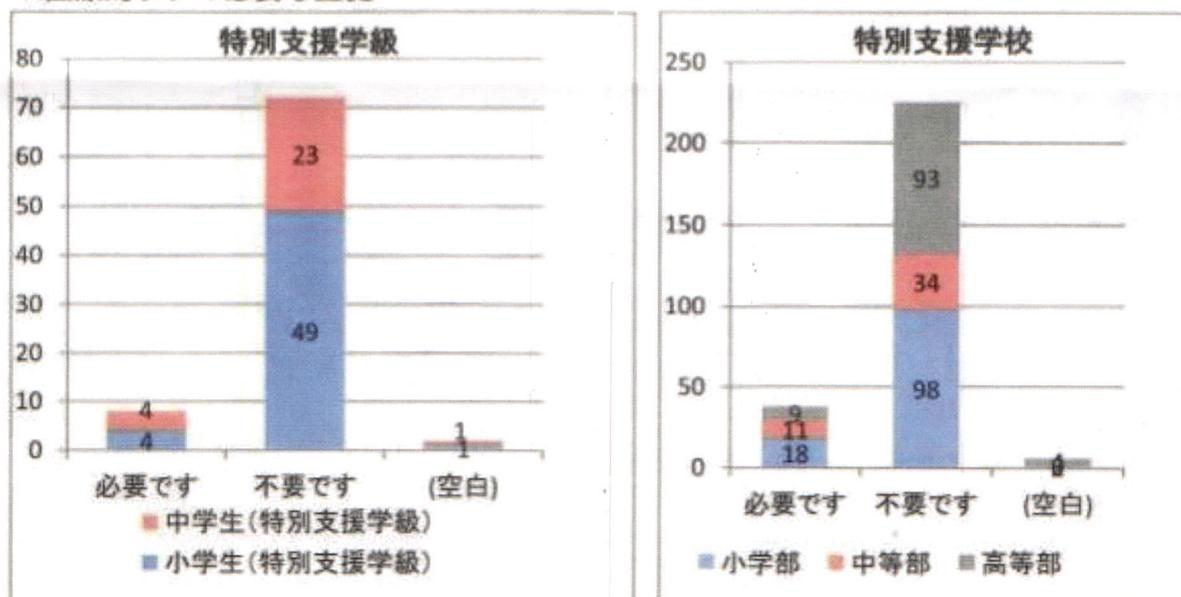


回答した生徒のほぼ半数が「付き添い」を必要としている。特別支援学校の生徒の方が必要とする生徒が多い。しかし、高等部では不要とする生徒の方が多い。

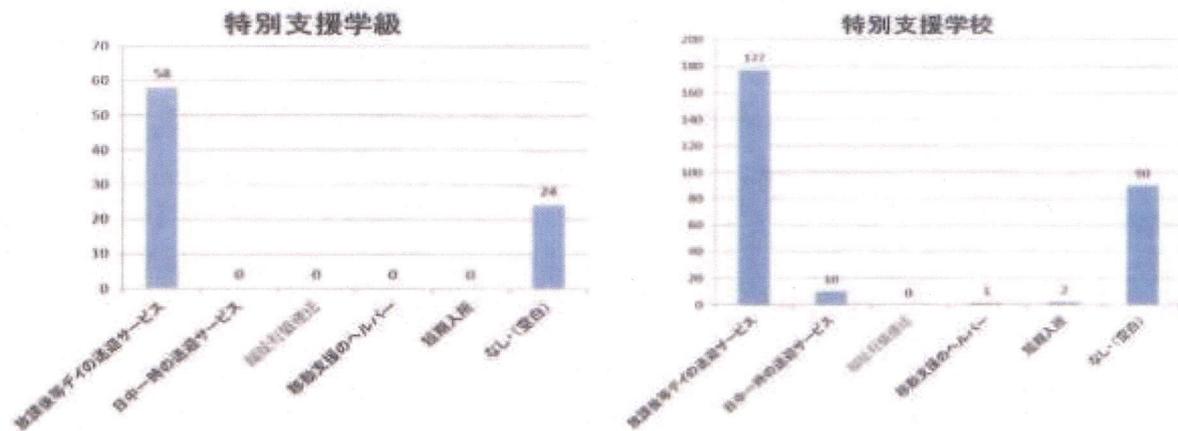
6.主な付き添い者

母親が多いが、父、祖父母、両親、姉など家族、担当の先生、スクールバス添乗員・介助員なども記入されている。

7.医療的ケアが必要な生徒



8. 登下校時に利用したことのある「制度・サービス」



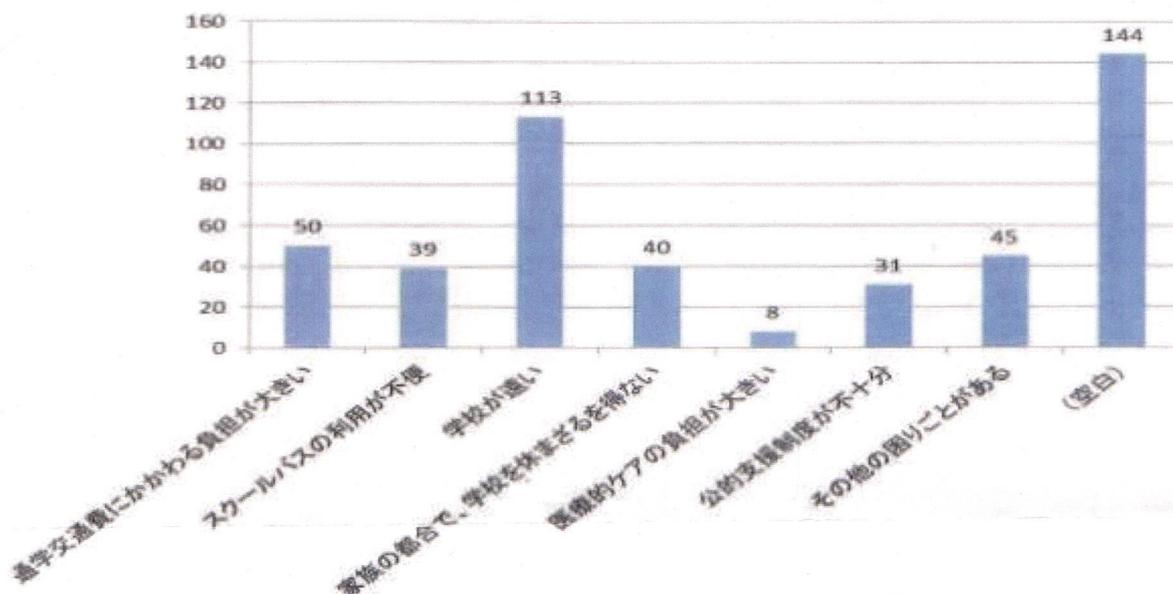
○「放課後等デイの送迎サービス」を利用している生徒

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| ・支援学級小学生 42人/54人中=77.7% | ・支援学校小学部 102人/118人中=86.4% |
| ・支援学級中学生 16人/28人中=57.1% | ・中等部 38人/45人中=84.4% |
| | ・高等部 37人/106人中=34.9% |

○351人中235人=66.9%の生徒は、下校時に「放課後等デイの送迎サービス」を利用している。

9. 通学に関して困っていること

通学に関して困っていること



10. 通学に関わる「その他の困りごと」

※通学に関わると思われるものに絞り込んだ。

- ・自力通学を考えているが練習のための時間がとれない。
- ・通学には移動支援が使えない。
- ・スクールバスがない。
- ・親が体調不良の時は、タクシーを使うしかない。送迎のサービスがほしい。
- ・スクールバス停留場が遠い(車で10分)。
- ・スクールバス停留場が一番近くて5キロ離れている。
- ・障がい児が2人いて、付き添い1人ではどうにもならない時がある。バス停には屋根がないため、雨の時は自家用車で学校まで行かざるを得ない。
- ・子ども状態により定時に出発することが困難。
- ・仕事のために、早い時間のスクールバスに乗せて、1時間後に学校に着くようにしている。
- ・母親の運転で助手席に乗せているがパニックや暴れることがあるので運転が危ない。通学に同行が欲しいが、該当するサービスがない。福祉有償サービスや介護タクシーではなく恒常的に利用できるサービスがよい。
- ・スクールバスを利用したくとも、相性のよくない方が同じだと結局乗れない。親の送迎になる。
- ・徒歩なので、直進信号などが分かっていない時があるので到着できるか不安。
- ・公共交通機関だと2時間かかる。悪天候の時は自転車は危険。
- ・電車が遅れた場合、予定しているバスに乗れない。

- ・親が迎えに行けない場合、独りでは帰れない。
- ・放課後デイでお迎えを頼みたいが、学校が校区外のため断られている。
- ・通学の道路沿いの飼犬が横ごしだが追いかけて来るのが怖い。
- ・集団登校を嫌がる。
- ・高等部は近くに少なく、今後の不安が大きい。
- ・スクールバスの送迎範囲を広げてほしい。無理な場合、バス停への時間を10分でも早く。

1.1. 障がい児者の移動についての自由記載から※「考える会」で、配慮すべきと思った意見など。

- ①線路を渡る時、溝にタイヤが挟まったり、勢いつけないと線路を越えれない。電車来るかもと思って、素早く渡ろうと思うと、余計にスムーズに動かない。フラットは無理でも、どうにかならないかと思う?・・・これはなんとかしないと!
- ②小学生の間は保護者付き添いが必須です。中学からは自力登校が許可されているので、練習しないといけないのですが、慣れるまで負担です。自家用で送っていくことも考えていますので、母体調不良のときに利用できる送迎サービスができたらいなと思います。
- ③軽度知的のため、将来公共交通機関を使えるようになれると思っている。そのため、日常的にバス利用の練習を行いたいが、バスの時間、路線、本人と付き添い人の運賃など家庭の負担になる問題が多いように思う。移動支援も視野には入れているが、家庭でも日常的・習慣的に行わないと利用方法以外にも危険回避・トラブル時や・マナーなど身につかないと思う。
・・・②とか③への対応のために移動支援事業の利用ができる市町村もある。
- ④親が学校まで送迎している家庭に対し、無料送迎チケットを配布するとよい。年に3回でもありがたい。・親の体調不良や緊急の用事の時、当日朝連絡しても学校まで送迎対応してもらえるサービスがあるとよい。タクシーでの対応でもよいが、障がい児者に慣れている付添いが同行する。
- ⑤・集団登校を嫌がる。・母が運転する車の助手席に座らせて通学しているが、子どもがパニックになったり暴れたりするので運転が危ない。・通学に同行して欲しいが、該当するサービスがない。・福祉有償サービスや介護タクシーではなく、恒常的に利用できるサービスがよい。・スクールバスを利用したくても、相性のよくない方(大声を出す方など)が、同じだと結局乗れず親が送り迎えをする。
・・・これらの意見から、個別対応で通学を支援する社会資源の必要性を感じました。
- ⑥経済が苦しくて学費支払いが2, 3カ月まとめて払うことがある。
- ⑦バス停まで1番近くで5キロ離れている。シングルマザーの為、体調を崩した際もバス停までは必ず送らなくては行けない為、朝に移動サービスのものが使えたら、とても助かる。
- ⑧・スクールバスが使用できない。・スクールバスのバス停が少ない。・スクールバス自体がない。
・スクールバス乗車が可能な障がいですが運行ルートや乗車定員が満員などで利用できない。
・医療系ケア児でもスクールバスに乗れるといい。
- ⑨高等支援学校にいますが、今後就職するとして自転車に乗れないため移動が限られており公共交通機関の発達していない地域では家族の送迎が必須、もしくは歩いていける場所での就職先を探さなければならず、今後どうしたら良いのか悩んでいます。また、家族も働いているため朝夕の送迎は難しい状況です。公共交通機関が難しいのであればコミュニティバスなどが増えたり、送迎支援などのサービスがあるととても助かります。

◎今回のアンケートから、

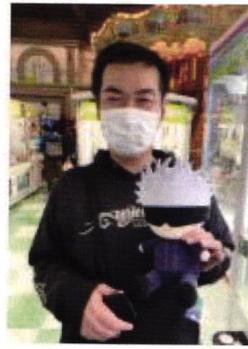
- ・岐阜市近辺の障がい児者の通学は、その半数近くが母親(家族)の負担による、自家用車通学という形が多い。
- ・小学校から高校まで12年間の通学を考えると大変な負担です。
- ・せめて、親御さんが体調不良であったり、仕事との兼ね合いで、子どもが学校を休むことのないよう、制度としての「移動支援サービス」の柔軟な活用ができないものかと思われます。

※ 岐阜市による「移動支援事業」では、通学等の通年または長期にわたる継続的な外出は、原則、支援の対象とならないとしています。

※ 全国的には、保護者の疾病時、通学ルートを覚える訓練、保護者の就労等で、通学に移動支援事業を認める市町村の事例があります。

初めてガイドヘルパーと出かけました

山口圭吾



「ヘルパーと外出したい、ココキャッチャーがしたい。」コロナが少し収まり、念願叶って十二月、始めてヘルパーとマーサのUFOキャッチャーへ。

「呪術廻戦の縫いぐるみを取った。縫いぐるみは部屋の寝床に置いてある。二時

間位いてまだ時間があつたので本屋さんに行って色々見た。」

「六月には、ビー・カンの友達の海太君とサッカーに行きました。初めてサッカーを見て楽しかった。昼ご飯は海太君の知っている韓井のお店に行った。」

海太君は電動車いすでヘルパーとの外出を繰り返して、外出にも慣れ、車いすの操作もとてもうまくなり、最近は一人でコンビニに買い物に出かけたりします。

「友達と一緒に行くのも楽しかった。」との事です。

「八月はサッカーのナイトゲーム。韓井を食べて行く。」

海太君がチケットを取ってくれて見やすかった。コーラも買った。

ところが観戦の途中で雷が鳴って、試合は二十分位で終わ

ってしまった。楽しかった。けど、残念。。。」

「次は、マーサのボーリングに行きたいです。」

十月か十一月にはサッカーに行こうかって、海太君と話している

ブルーベリーの収穫

in ブルーベリーの丘東白川

九月三日に、大型台風の影響で雨が降る中、時より晴れる隙間を雨雲レーダーで確認しながら収穫に向かいました。東白川に向かっている途中で、ブルーベリーの丘東白川からメールがあつたことを知らずに向かっていたら心配された農園の方から電話が入り、話しているとどうやら東白川は局地的に大雨だったようです。向かってしまったものは仕方がない濡れながら収穫しますかと向かうと現地はしっかりと降っていましたが、雨雲レーダー通り雨雲の隙間の時間ですっかりと収穫出来ました。

今年のブルーベリーは、粒が大きく育っていました。農園の方が考えるには、昨年の冬に強剪定を行い、春から樹に勢いが戻り生育がよく大きな実



をたわわにつけていました。

今年は、雨の隙間を狙っての収穫で時間は短かったですですが昨年と収穫量としては同じくらい約20kgありました。

美味しいジャム作るぞ!!



黒野自治会連合会からの敬老会記念品依頼

今年、黒野自治会連合会が執り行う敬老会が感染拡大に伴い記念品を配布することになり、その記念品の袋詰め作業の依頼が黒野自治会連合会よりありました。初めて、地域からの作業依頼が嬉しかったです。嬉しかったので、みんなテンションが上がリ袋詰め作業が1000個を超える大量でしたがみんな



の気合が十二分に乘ってしまい、ほぼ午前中で終わってしまいました。午後からの仕事は皆さんくたびれてしまい少しペースを落としての仕事となっていました。



販売会のお知らせ

毎年十月に開催予定だった「ビー・カンパニー」地域交流ふれあいまつり「コロナ感染の最大級の拡大に、今年も中止することになりました。感染へ対策を重視しなければと考えます。地域に馴染んできたのに残念ですが・・・。

今年、まつりを中止としましたが十一月に感染対策を取りながら販売会と行うこととなりました。基本は指定用紙での期日までのご注文となり当日のお渡しとなります。

開催日時 令和4年11月6日(土)11時～16時
場所 ビー・カンパニー駐車場(岐阜市古市場79-1)
当日販売品

- 自然食品、わっぱん
- キャンドル教室
- キツシユ、クランプルタルト
- 焼きいも

□編集・発行□

■特定非営利活動法人
障害者自立センター
つかいぼう■

〒502-0843

岐阜市早田8丁目4番1号
バセール長良103号

TEL:058-215-7374

Fax:058-296-5343

[:tsukkaibo@ip.mirai.ne.jp](mailto:tsukkaibo@ip.mirai.ne.jp)

■就労継続支援B型事業所
ビー・カンパニー■

〒501-1121

岐阜市古市場79-1

TEL:058-214-8114

Fax:058-214-8447

be-company@tsukkaibo.com

□編集発行日□

令和4年9月13日